

## 1 研究の趣旨

新学習指導要領の全面実施にあたって、「生きる力」の理念は継承され、それを構成する大きな柱の一つに「豊かな人間性」が挙げられており、道徳教育をこれまで以上に重視するものとなっている。

本校生徒の実態を見てみると、自制心や規範意識が希薄化し、基本的な生活習慣の確立が不十分な生徒が目につく。また、頭では「こうしなくては」とわかっているが、なかなか実践に移せない生徒も少なくない。

道徳に対する教員の意識について、「道徳の授業に積極的に取り組んでいるか」（４段階）というアンケートを実施したところ、「（あまり）取り組んでいない」教員が65%という結果が出ており、道徳への消極的な姿が見られる。その理由として、「道徳の授業が大切なのはわかっているが、なかなか良い授業ができない」が最も多い。また、「道徳をする上で大変なこと」として、「適した資料の準備」「教材研究」が多く挙げられている。

本校は、10月の中教研道徳部会県大会で授業公開校になっており、県中教研のテーマに合わせて上記のような副主題を設定したが、本校の教員にとっても良い研修の機会になると思われる。

そこで、我々教員が「道徳の授業」に真摯に取り組み、生徒一人ひとりに道徳的実践力を身につけさせるために、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

道徳の授業において、生徒の実態に応じた資料を選択・分析し、導入の仕方を工夫すれば、価値の方向付けや問題の意識化が的確に行われ、それが展開での価値の追求や自己の振り返りへとつながり、その積み重ねによって生徒一人ひとりの内面的自覚が深まり、道徳的実践力を身につけることができるであろう。

## 2 研究の概要

### (1) 「資料の選択・分析」について

#### ① 生徒の実態把握

新道徳性検査 [HUMANⅢ]（4月実施）によると、内容項目の4つの視点の中で、視点4「集団や社会とのかかわりに関すること」は全国平均より高い傾向にあるが、視点1～3については、ほぼ全国平均と同じであることがわかった。そこで、今年度は視点1～3を中心に研究することとした。

#### ② 資料の選択・分析

HUMANⅢの結果をもとに、学級の実態を十分に考慮しながら資料を選択したが、学習指導要領解説道徳編にも「教材を選定する教師自身が感動を覚えてこそ、よい教材であると言える」とあるように教師自身の思いも大切に、資料の選択および資料分析を行った。

### (2) 「効果的な導入」について

導入の役割は、「問題の意識化」「価値の方向付け」「資料への方向付け」と言われているが、今年度は、特に「価値の方向付け」「問題の意識化」を中心に取り組むことにより、授業全体を通して中心価値がぶれないよう配慮した。また、視覚に訴える導入や他教科との関連を図った導入等、様々な取り組みをした。

### (3) 「自己の振り返り」「効果的な終末」について

#### ① 自己の振り返り

道徳の授業において、展開後段の「自己の振り返り」が生命線となるので、本時で扱った中心価値とこれまでの自分とを照らし合わせて、いかに自己を振り返らせるかを工夫した。

#### ② 効果的な終末

終末の役割は「価値の深化・継続化」だが、価値をより深めさせるために自作のDVD等を活用した。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

① 生徒の実態把握をしっかりとした上で資料の選択や分析をし、さらに導入を工夫したことによって中心価値がぶれなくなり、それが授業の展開に生かされ、価値のより深い理解につながった。

② 道徳の研究授業が20回以上行われ、研修の機会が大変増えたことにより、道徳への教員の意識が変容した。意識調査でも「道徳の授業に積極的に取り組んでいる」教員が35%から70%近くに増加した。

### (2) 今後の課題

① 道徳の授業の積み重ねによって育まれた「道徳的実践力」をどのように「道徳的実践」につなげていくか、そして、その変容をどう把握するかについて考えていかなければならない。

② 展開前段における価値の追求の仕方、特に発問構成については今後の大きな課題である。